



国際アート・カルチャー都市 実現戦略推進事業

2020年4月



豊島区の概要

- 巨大ターミナル池袋を有する日本一の高密都市。住民の約1割は外国籍
- 日本一の単身高齢者世帯割合、公園面積が23区最小など多くの都市課題を有する
- 文化面では、**舞台芸術や、マンガ・アニメなどのサブカルチャーのメッカ**として賑わうまち

○巨大ターミナル“池袋”

・一日乗降客約270万人

○住と商のバランス

・商業地「池袋」、周辺は住宅地

・面積…**13.01km²**

(23区中18位)

・人口…**290,246人**

(2020年1月1日時点)

※**外国籍の区民は1割**
(多文化共生施策の推進)

・人口密度…**22,309人/km²**

【特徴と課題】

○日本一の人口密度

○日本一の75歳以上単身高齢者世帯割合(市区部)

○一人あたり公園面積が東京23区で最も小さい

○空き家率が東京23区で最も多い

【まちランキング】

・共働き子育てしやすい街 No.1
(2017_日経DUAL)

・借りて住みたい街 No.1
(2017-2020 4年連続_HOME'S_池袋駅)

・住みたい街 No.5
(2018_suumo_池袋駅)



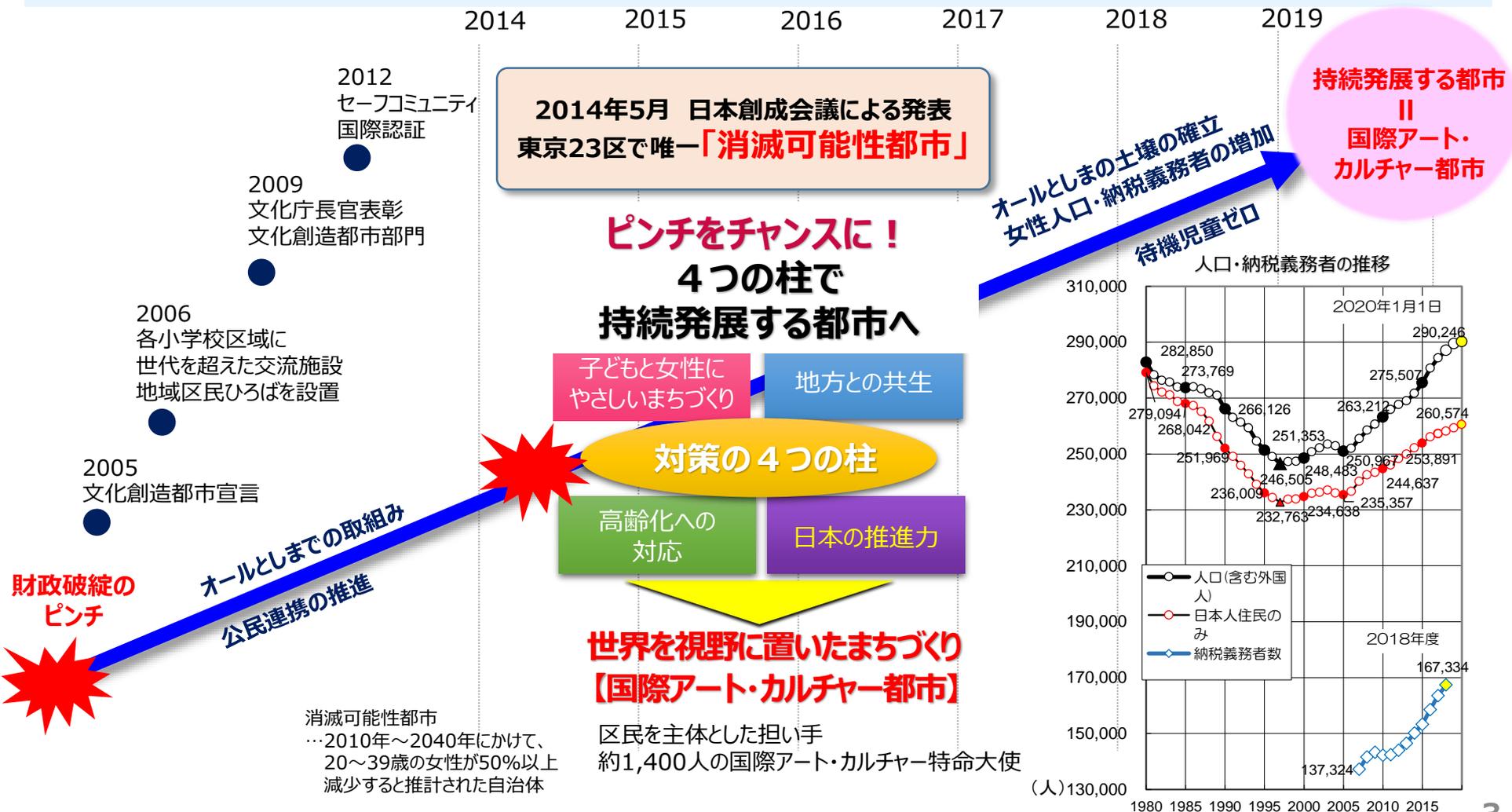
池袋西口公園野外劇場でのオーケストラコンサート



池袋PRアニメ ©豊島区 ©アニメイト

「消滅可能性都市」から「持続発展都市」へ

- 財政破綻のピンチから、文化によるまちづくり、セーフコミュニティなどの取組で立て直し
- そのような中、東京23区で唯一「消滅可能性都市」の指摘がなされた
- これを契機に、**持続発展する都市「国際アート・カルチャー都市」**づくりを推進



公民連携による「稼げる自治体」

- 日本初の民間マンション一体型庁舎。区有資産を活用し、財政負担ゼロで建設
- 旧庁舎跡地も公民連携し、8つの劇場を有する新たな文化にぎわいの拠点へ
- 限られた財政状況の中、公と民の知恵と力を結集し、新たな取組に挑戦してきた

財政負担ゼロで建設



旧区庁舎跡地は定期借地により民間活用
新たな文化にぎわいの拠点へ
～ Hareza池袋 ～



区有地定期借地料を
新庁舎整備費へ充当

「国際アート・カルチャー都市」の実現に向けて

- 東アジア文化都市の開催をきっかけとして、「オールとしま」の土壌を確固たるものに
- 23のまちづくり記念事業も同時に推進して、「まち全体が舞台」に
- 中国・西安市、韓国・仁川広域市との国際文化交流もスタート



東アジア文化都市2019豊島

- ・ 国家的国際交流事業 2019年代表都市
- ・ 397事業 延べ350万人が参加
- ・ 約1,300人の推進体制
(実行委員会・推進協議会)
- ・ 民間レベルでの151人の交流訪問

開催と同時に23のまちづくり記念事業を実施 (2019~2020年で整備完了)



Hareza池袋



IKEBUS



池袋西口公園野外劇場



中池袋公園



としまみどりの防災公園



ウイロード



トキワ荘マンガミュージアム



アートトイレ



グリーン大通りの再生
(歩行空間の再整備等)



無電柱化事業
(巣鴨地蔵通りなど)

2030年のあるべき姿 「国際アート・カルチャー都市」の実現

国際アート・カルチャー都市

まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市



世界とつながり、人々が集まるまち

多様な文化と出会いが生まれる劇場都市

区民一丸となった、安全・安心で人間優先のまち

みんなが主役の、文化とともに発展する環境都市



誰をも受入れ、誰からも受け入れられ、
持続して発展する社会の構築を目指す

モデル事業 「国際アート・カルチャー都市 実現戦略推進事業」

経済



【目標】

- ◎ 多様な文化による地域活性化
- ◎ 歩行者中心の賑わい

〔主な取組〕

- 池袋西口公園における文化イベント
- 東アジア文化都市との文化交流事業

社会



【目標】

- ◎ 高密度社会における誰もが活躍・安心できる場づくり

〔主な取組〕

- 人が主役になる交通環境の実現
- 区内保育施設IKEBUS活用事業
- 高齢者の社会的孤立ゼロプロジェクト

環境



【目標】

- ◎ 大都市における魅力ある公園整備
- ◎ 協働による環境都市づくり

〔主な取組〕

- グリーンインフラの拡充（グリーン大通り、立教通り）
- グリーンとしま再生プロジェクト（10万本植樹）

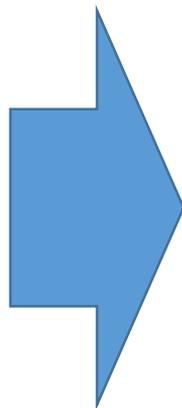
三側面をつなぎ、さらなる効果と自律的好循環を生みだす、
統合的取組の実践

「統合的取組に向けて」

- **既存の資源と強みを活かす**
⇒ 23のまちづくり事業の象徴
「公園整備」と「IKEBUS」
⇒ 公民連携とオールとしま
- **経済、社会、環境の三側面の相乗効果が期待できる**

区内の都市空間を
公民連携により活用

「公園を核にしたまちづくり」



「統合的取組の内容」

(1) 池袋駅周辺の4公園を核にした、まちづくり

- 各々のエリアマネジメント組織の連携
- 4公園をつなぐ電気バス「IKEBUS」

(2) 暮らしの中にある小さな公園の活用

- 地域住民や企業と連携
- コミュニティづくり

高密都市としての社会課題を解決し、年齢・性別・国籍などを問わない
「すべての人が主役となる都市空間」へ

池袋駅周辺の4公園を核にした、まちづくり

- 個性ある4つの公園の運営団体（エリアマネジメント組織）を連携させることで「新たな交流、表現、にぎわい」を創出 [社会・経済]
- 電気バスで各拠点を回遊、サポーター企業と共同イベント実施 [環境・社会・経済]



2019年11月 オープン
■ 池袋西口公園 [愛称：グローバルリング]
 本格クラシック演奏などが可能な野外劇場。
● 公民連携の手法
 ・東京芸術劇場等と連携してイベントを展開。
 ・民間カフェ収益の一部等を公園運営費へ。



2020年6月末グランドオープン
Hareza(ハレザ)池袋
真っ赤な電気バスが公園と人と未来をつなぐ！

2019年9月 オープン
■ 中池袋公園
 マンガ・アニメの聖地。「Hareza池袋」内の公園。
● 公民連携の手法
 ・アニメイト等の周辺企業と連携しアニメコスプレイベント等を展開。開発者（東京建物、サンケイビル）がエリアマネ団体を組成し、施設使用料等を運営費へ。

2016年4月オープン
■ 南池袋公園
 芝生が一面に広がる区民、来街者のオアシス
● 公民連携の手法
 ・南池袋公園をよくなる会によるイベント等の実施。民間カフェ収益の一部等を運営費へ

※災害備蓄倉庫や1000台の地下駐輪場も併設



2020年7月 オープン予定
■ としまどりの防災公園 [愛称：イケサンパーク]
 あらゆる防災機能を有する区内最大面積の公園。
● 公民連携の手法
 サンシャインシティと連携したイベント、民間カフェ運営、マルシェ運営等を実施する予定

・民間によるバス運営
 ・災害時は非常用電源としても活用
 ・自動運転も実験中

2020年7月 オープン予定
★ としまキッズパークも同時オープン
 小さな子ども専用の公園。インクルーシブの概念も取り入れ、誰もが一緒に遊べる公園へ。

暮らしの中にある小さな公園の活用

- 地域住民と地域特性を活かした活用方法を検討・実践 [社会・環境]
- 企業と連携し、その強みを生かして、モデル公園を区内全域へ拡大 [社会・経済]



地域とともに。「ともに育つ公園」を区内全域へ

豊島区では園庭のない保育園が約8割
小さな公園は園児たちの遊びの場

■ 地域住民とともに活用方法を検討・実施

○○できない公園から○○できる公園へ



公園をみんなで育てよう
井戸端かいぎ



花壇づくりワークショップ



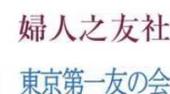
みんなで作る アートトイレ

■ 移動式ツールの活用



飲食販売兼本棚等を搭載したトラック

■ 企業との連携 (FFパートナーシップ協定)



モデル事業実施による相乗効果



経済 ⇒ 社会
 公園を核にした、文化事業による
 まちの賑わい
 ⇒ 区のイメージアップや、シビック
 プライドの醸成へ



社会 ⇒ 経済
 公園を中心として、まちに集まる
 人々の交流
 ⇒ 新たな文化・活動とイノベーション
 を生みだし、経済活動の活性化へ

提供：池袋ハロウィンコスプレフェス2017/niconico



経済



社会



経済 ⇒ 環境
 まちの賑わいによる収益（公園の活用による使用料等）
 ⇒ 公園等みどりの環境整備へ還元へ

**三側面をつなぐ
 統合的取組み**

社会 ⇒ 環境
 女性や子ども、高齢者、外国人など誰をも
 受け入れる社会
 ⇒ 誰もがゆっくり楽しめる環境にやさしい
 IKEBUSの利用へ

環境 ⇒ 経済
 公園の整備やIKEBUS運行
 ⇒ 来街者や定住者の増加を図り、地域内
 経済循環へ

環境

環境 ⇒ 社会
 公園整備や公園を住民・企業と共に育てる
 ⇒ コミュニティ形成の場づくりや、居心地の
 よいまちへ



自律的好循環に向けて

公が先導し、民がこれに連鎖して続く都市再生モデル

持続発展する
「国際アート・カルチャー
都市」へ

公民連携によって
深化し続ける好循環

「公」によるハード整備と
まちの賑わい創出



「公」から「民」へ
※公によるきっかけづくり

オールとしま

※さらなるステークホルダーとの連携



公園を核にした、まちづくり

「民」との連携
(区内全域)

・企業と地域住民による
「中小規模公園」の活用

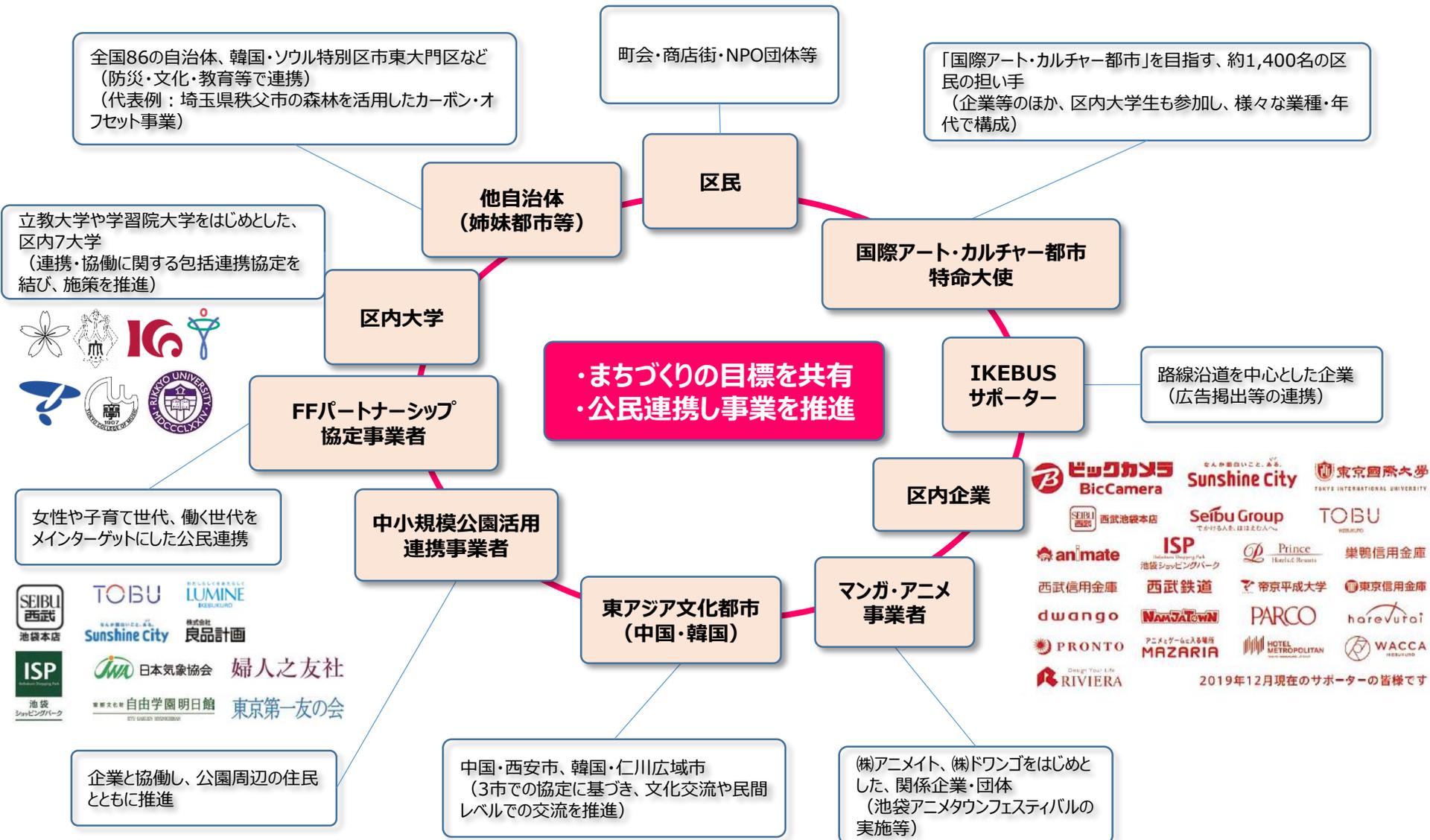
「民」との連携
(4公園を中心とした池袋駅周辺)

・エリアマネジメント組織による公園運営
(例：マルシェ等イベントやカフェ運営などによる利益を運営費へ)
・IKEBUSサポーター (広告料を運営費へ)

⇒「民」主体の取組を区内全域に ⇒来街者の増大等による、まちの活性化



多様なステークホルダーとの連携 「オールとしま」



本区モデル事業の普及展開性と実現可能性

普及展開性

大都市も地方都市も、すべての都市の参考となるモデル

- ・ 池袋駅周辺の4公園を核にしたまちづくり（大都市・高密都市のモデルへ）
- ・ 暮らしの中にある小さな公園の活用（地方都市を含めたすべての都市のモデルへ）

スケジュール

	2020年度	2021年度	2022年度
池袋駅周辺4公園	エリマネ団体の設立		
		エリマネ団体の自走仕組みづくり	
	IKEBUS共同イベント	サポーター主体のIKEBUSイベント	
暮らしの中の小さな公園	住民との活用検討	公園改修・活用を持続的に実施	